

## I 管理機関の取組

### [1] 運営組織づくり

カリキュラム開発拠点校	岡山操山中学校・高等学校
事業連携校	岡山一宮高等学校 岡山城東高等学校 岡山工業高等学校 倉敷天城中学校・高等学校 倉敷中央高等学校 玉島高等学校 津山中学校・高等学校 和気閑谷高等学校 岡山大安寺中等教育学校 Sacred Heart College高校（オーストラリア）
事業協働機関	岡山大学 岡山県立大学 岡山県経済団体連絡協議会 ベネッセコーポレーション JETRO岡山 JICA中国 AMD A 岡山県 岡山市

「社会への多様性への理解の促進」「課題研究の充実」「高度な学びの推進」を実践するため、カリキュラム開発拠点校、事業連携校、事業協働機関と連携し、ALネットワークを構築した。拠点校と連携校間との連携については、管理機関担当者と各校の担当者による「ALネットワーク連絡会議」を設置し、具体的な連携事業を進めていった。6月29日に、第1回会議をオンラインにて実施し、今年度の事業計画について確認、協議を行った。10校の担当者が頻繁に会議を行うことは難しいため、通常はALネットワークのGoogle Classroomで情報を適宜共有しながら、連携を進めた。

各事業協働機関には、年度当初に管理機関の担当者と訪問を行い、事業の年間の見通しや、連携を依頼する内容等について説明し、協力を求めた。

## [2] 運営指導委員会

氏名	属性／所属	主な役割
ウイリアムズ ジェイソン	大学関係者／ ノートルダム清心女子大学准教授	グローバル人材育成に関する知見 国際交流や高度な英語力の育成に関する指導助言
神崎 浩二	産業界関係者／岡山県経済団体連 絡協議会事務局長	産業界が高等学校に求める教育の在り方に関する知 見、学校と企業との連携に関する指導助言
林 俊克	大学関係者／就実大学教授	データサイエンスに関する知見 探究学習の手法に関する指導助言
福本 昌之	大学関係者／広島市立大学教授	教育評価に関する知見 探究学習の手法に関する指導助言
松原 憲治	教育関係者／国立教育政策研究所 教育課程研究センター基礎研究部 総括研究官	ESDに関する知見 OECDの視点からの生徒の資質・能力の育成、教科 横断的な学習、STEAM教育に関する指導助言

運営指導委員として5名を委嘱し、2回の委員会を実施した。いずれも新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、オンラインでの開催となった。

第1回 期日 令和3年8月24日（火）14：00～16：00

第1回検証委員会と共催

参加者 運営指導委員，検証委員  
校長，副校長，教頭，各担当者  
管理機関

内容 今年度の事業計画の説明  
各委員からの指導助言  
拠点校から各委員への質問

第2回 期日 令和4年2月9日（水）14：00～16：30

参加者 運営指導委員  
校長，副校長，教頭，各担当者  
管理機関

内容 今年度の取組の説明，成果の検証，次年度への展望  
未来航路の授業風景のオンライン参観  
各委員からの指導助言

## [3] 検証委員会

氏名	属性／所属	主な役割
小川 正人	大学関係者／ 環太平洋大学副学長 教授	データ等に基づいたALネットワークの取組の成果等 の分析 グローバル人材育成に関する知見
出島 誠之	株式会社出島プランニング代表取 締役（データ分析専門家）／岡山 県政策アドバイザー	データ等に基づいたALネットワークの取組の成果等 の分析 自治体と企業等の連携に関する知見

検証委員として2名を委嘱し、年2回の委員会を実施した。

第1回 期日	令和3年8月24日(火) 14:00～16:00 第1回運営指導委員会と共催
参加者	運営指導委員、検証委員 校長、副校長、教頭、各担当者 管理機関
内容	今年度の事業計画の説明 各委員からの指導助言 拠点校から各委員への質問
第2回 期日	令和4年3月を予定
内容	今年度の事業成果の検証、意見交換

#### [4] ALネットワークの取組

##### (1) Stanford GMIXプログラム参加院生とのオンライン交流

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、短期、長期の海外留学や、姉妹校間の相互交流、各種海外研修等が中止となったことにより、海外交流、異文化交流の機会が失われている。そうした状況のなかで、本県県民生活部国際課が実施した、Stanford GMIXプログラムに参加しているスタンフォード大学の大学院生とのオンライン交流に、拠点校、連携校6校が参加した。事前に準備した各校の紹介や大学院生への質疑応答などを英語で行い、大学院生から、参加した生徒に対する英語でのアドバイスを受けた。

日時	令和3年8月28日(土) 9:00～10:30
参加校	岡山一宮高校、岡山城東高校、倉敷天城高校、玉島高校、津山高校、 岡山大安寺中等教育学校 (岡山操山高校は参加予定であったが、別の行事により不参加となった)

##### (2) 全国高校生フォーラムへの参加、オンラインリハーサルの実施

文部科学省、筑波大学(幹事管理機関)が実施する、全国高校生フォーラムに拠点校、連携校の6校が参加した。昨年度は拠点校と連携校2校までという参加校数制限があったが、今年度は参加を希望する全ての学校が参加可能となった。

12月19日のフォーラム当日の英語での生徒交流会に向け、ZOOMミーティングを使い、参加校によるオンラインリハーサルを実施した。本番同様に、1分で各校のプレゼンテーションの要約発表と、生徒相互の質疑応答を英語で行った。

本番のフォーラムには、「アジア高校生架け橋プロジェクト」を利用して拠点校に在籍しているマレーシアからの留学生も参加し、英語での意見交換を行った。

全国高校生フォーラム参加校

岡山操山高校、岡山一宮高校、岡山城東高校、倉敷天城高校、玉島高校  
岡山大安寺中等教育学校(プレゼンテーション動画の部のみ参加)

### (3) Well-beingフォーラム

令和5年度に完全実施を計画している高校生国際会議のプレイベントとして、本事業のテーマである“Well-being”について理解を深め、「“Well-being”な社会の実現」のための方策について探究する「Well-beingフォーラム」を実施した。

初年度である令和3年度の実施内容として、拠点校、連携校による課題研究合同発表会、事業協働機関であるAMD A代表の菅波茂氏による基調講演と、参加生徒によるラウンドテーブルを実施するとともに、フォーラムの内容を「おかやま高校生“Well-being”宣言」としてまとめ、発信することを計画した。

3月5日のフォーラム本番の事前セミナーとして、2/12にAMD A理事であり、医師として国内外の様々な地域で医療活動、人道支援を携わってきた佐藤拓史氏の講演、座談会をオンラインにて実施した。豊富な経験をもとに、人生において影響を受けた恩師との出会いや、生命の危機に直面している人たちを前に、自分に何ができるのかを問い続けた青年時代の日々を通して考えてきたことを熱く語りかける講演に、参加生徒たちは真剣な眼差しで聴き入っていた。“Well-being”について、より具体的なイメージを、各自のなかに持つことができた、手応えのある講演会であった。

3月5日のフォーラムは、当初、協働機関であるベネッセコーポレーションの本社の地下大ホールを会場に実施する予定であったが、岡山県全域を対象とした新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の期限が延長されたことに伴い、オンラインでの実施に変更することとなった。

#### ○「Well-beingフォーラム」

目的 W W L コンソーシアム構築支援事業におけるカリキュラム開発拠点校と事業連携校の課題研究等の取組の成果を相互に交流するとともに、参加生徒が事業のテーマである “Well-being”について理解を深め、「“Well-being”な社会の実現」のための方策について探究する。

日時 令和4年3月5日（土）9：00～16：00

会場 (株)ベネッセコーポレーション本社 地下大ホール

※新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の期限延長に伴い、オンライン開催に変更

参加校 岡山操山高校、岡山一宮高校、岡山城東高校、岡山工業高校、倉敷天城高校、倉敷中央高校、玉島高校、津山高校、和気閑谷高校、岡山大安寺中等教育学校 Sacred Heart College高校（オーストラリア）

日程	9：00	開会行事
	9：15～12：10	各校発表7分、質疑5分
	13：10～14：40	基調講演「“Well-being”な世界とは」（仮） 特定非営利活動法人AMD A代表 菅波 茂 氏
	14：50～15：30	参加生徒によるラウンドテーブル（グループ協議） 「“Well-being”な社会の実現に向けて」
	15：30～15：50	「おかやま高校生“Well-being”宣言」に向けて （全体協議）
	15：50～16：00	閉会行事

○「Well-beingフォーラム」事前セミナー（オンライン）

日時 令和4年2月12日（土）15:00～16:30

講師 特定非営利活動法人AMD A理事・医師 佐藤 拓史 氏

岡山大安寺高校出身。東京大学卒業後、浜松医科大学医学科を経てAMD Aで活動。国内外の様々な地域で人道支援、医療活動に携わる。現在はAMD A南海トラフ災害対応プラットフォーム運営委員会副委員長、東亜大医療学部教授、モンゴル国立医科大学招聘教授等を務める。

参加者 Well-beingフォーラム（3月5日）に参加する生徒

日程 14:30～ 接続確認, 受付  
15:00～15:05 開会, 講師紹介（岡山県教育庁高校教育課）  
15:05～16:05 講演  
16:05～16:30 参加生徒からの質問, 座談会

[事前セミナー生徒の感想から抜粋]

- ・佐藤先生や佐藤先生のお父さんのように、自分の意志を強く持って行動を起こすことが、誰かを助け、笑顔にするということに繋がっているのだと思いました。
- ・相手の視点になって考えることの難しさに気づきました。逆に言えば、それが出来れば性別が違って、人種が違って、宗教が違って、みんなが幸福になれる方法が見つかるのかもしれないと感じました。
- ・相手の立場を考えて自分が思う幸せを願ったつもりでも、幸せの物差しは本当にその人の立場に立ってみないと分からないのだと思いました。だからこそ、佐藤先生が現場に行くことは本当のニーズを探る姿勢なのだ実感しました。
- ・「自分から出会いに行った人が恩師になった」ということにとっても共感しました。私も何かしらの行動をしてこれまで素敵な恩師に出会うことができましたが、佐藤先生の行動力にはまだまだ及ばないなど実感しました。自分のしたいことに向きあい、勇気を持って行動していきたいと思いました。

(4) 教員研修会（学力向上プロジェクト合同分析会）

例年実施している、「学力向上プロジェクト合同分析会」において、探究的な学びや教科横断的な学びについての県内外の先行事例の発表、参加者による協議を実施した。県内の先行事例として、拠点校である岡山操山高校と、連携校である岡山工業高校、和気閑谷高校が実践発表を行った。また、会の様子は県内高校へオンライン配信を行い、全校の教員研修の機会となるよう公開した。

○令和3年度学力向上プロジェクト合同分析会

目的 各校や県内の学力状況を分析し、その結果を踏まえて学習指導の在り方について情報交換を行い、指導改善のためのPDCAサイクルの構築及び学習指導の充実を図る。

日時 令和3年10月29日（金） 9:30～16:00

会場 岡山県総合教育センター

参加者 県立高等学校・中等教育学校（後期課程）の学力向上の中核を担う教員各校1名

- 日程 《午前の部》岡山県の学力課題と課題解決に向けた授業改善について
- 9：30～ 9：45 開会行事
- 9：45～10：05 説明1：本県の学力課題と現状について(高校教育課)
- 10：05～10：50 説明2：学びの基礎診断について(ベネッセ担当者)
- 11：05～11：45 協議1：各校の学力課題と学びの基礎診断を活用した授業改善に向けての取組について
- 《午後の部》学力向上に向けて～「探究的な学び」「教科横断的な学び」「ICTを活用した個別最適な学び」をキーワードに～
- 12：45～13：45 実践発表：県外の先進校による実践発表
- ①長崎県立諫早高等学校
- ②三重県立桑名北高等学校
- 13：45～15：05 実践発表：県内高校による実践発表
- ①岡山操山高等学校
- ②岡山工業高等学校
- ③和気閑谷高等学校
- 15：05～15：50 協議2：「探究的な学び」「教科横断的な学び」「ICTを活用した個別最適な学び」を通じた学力向上の取組について

#### (5) 次年度に向けての課題

- ・ALネットワークとして、高校生に高度な学びを提供する仕組み、体制をより系統的に整備していく必要がある。
- ・関係機関との定期的な連携，年間を通しての協力，支援を求めていく必要がある。
- ・岡山大学，岡山県立大学を中心に，関係機関とAP（先取り履修）に関する仕組みづくりの検討を本格的に進めていく必要がある。